

歴史探訪

クラブ

其の106

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

田原が誇る思想家・岡田虎二郎

新しい年を迎え、さまざまな問題を抱える現代社会において、今一度過去の優れた考え方を見直すことは、今を生きる私たちにとって大事なことでないでしょうか。

さて、「田原市ゆかりの偉人をあげよ」と言われれば、まっ先に名があがるのが、江戸時代に活躍した渡辺華山（かざん）でしょう。華山は、教科書にも登場し、国宝になっている絵を描くなど多彩な能力を持った人物です。全国的にも名が知られ、非業の



▲岡田虎二郎肖像

死を遂げたその生き方は、戦前の人たちに大きな影響を与えています。しかし、実際の影響度で言えば、これからご紹介する岡田虎二郎は勝るとも劣らないといえます。虎二郎は、自身が始めた「静坐法」を通じて、当時の人々の心身の改善を進め、近代の日本において最も人々に影響を与えた田原出身の思想家なのです。

岡田虎二郎（1872～1920）は、明治5年に田原藩士の子として田原に生まれました。家は裕福でないうえに病弱でしたが、高等小学校卒業後は農業に従事し、渥美郡農業主事となり、稲の害虫駆除法の開発で大きな業績を残しています。その後、農業行政に挫折した虎二郎は、30歳で天竜川の治水・護岸工事などを行った金原明善（きんげんめいぜん、1832～1923）の支援を受け渡米しました。渡米した当初の目的はわかりま



▲岡田虎二郎の生まれた屋敷跡(田原町)

せんが、英・仏・独語、哲学、宗教を広く学びました。そして、西欧の古い歴史や現在の生活の中から、民族や国境を越えて変わらないのは「大愛の心」であると悟りました。当時の宗教や思想のあり方に失望した虎二郎は、師となるものは「キリスト、釈迦、孔子、ソクラテス、二宮尊徳（にのみやそんとく）だけである」と言いました。このように、特定の宗教や思想に偏っていないのが、虎二郎の偉大さと言えます。

虎二郎は3年後に帰国し、人間本来の自然体形と呼吸法を基とした静坐法を創案しました。35歳で上京し、静坐法を形として、日本人の心身開

発に力を注ぎました。虎二郎の「静坐」は一世を風靡し、皇族・軍部・政治家・大学・会社の中心層の名士、芸術家、文士から庶民まで、さまざまな立場の人々に受け入れられました。田中正造（たなかしょうぞう）（足尾銅山鉍毒問題に関わった政治家・社会運動家）や木下尚江（きのしたなおえ）（小説家・社会運動家）は、もつともその影響を受けた人たちです。最盛期の正造・尚江は、虎二郎のメロモから、1週間休みなしで78か所も静坐の指導にまわったことが分かっています。虎二郎は、寝る間も惜しんで静坐の指導にあたったのです。なぜ静坐はこれほどまでに人々に受け入れられたのか、静坐によって人は何が変わるのか。今回は静坐法について解説します。

(増山)

今月の「表紙」

▼今ではなかなか見られなくなかった、ダイコンのはざかけ。ダイコンを、かけ声もなく投げ渡し、掛けてゆくその様は、まさにあうんの呼吸。天日干しにしたあとは、たくあんにするのだそう。噛めば噛むほど味の出るたくあんのよう、読めば読むほど味が出るような文章を書けるように頑張ります。(〇)

【表紙の写真ダイコンのはざかけ(大草町)】